

河川砂防技術研究開発公募(流域計画・流域管理課題分野)
平成26年度採択テーマ 中間評価結果

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	激特事業を完了した河川流域における継続的な地域防災力保持のための実践的研究	鹿児島大学 安達 貴浩	b	防災意識調査や水防学習の実施、河道状況の把握等、個々の研究は着実に進捗しているが、防災啓発活動と要素研究との連携や、学習プログラムの開発等、連携による成果の明確化に留意しながら、研究を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究では、川内川流域において継続的に地域防災力を保持することを目的として、防災意識を持続するための啓蒙活動を実施するとともに、効果的かつ経済的な治水能力維持のための方策を確立する。			
テーマ	浸水リスクの変化とその提示内容改善が将来の人口分布・土地利用に与える影響とそれらを考慮した水害リスク軽減対策に関する研究	八千代 エンジニアリング株式 会社 石徹白 伸也	a	浸水リスクマップの作成や水害リスクを考慮した将来人口推計等、研究は着実に進捗していることから、現行の通り推進することが妥当と評価する。
概要	複数河川、内外水の氾濫リスクとその提示内容改善が将来の都市構造に与える影響を整理し、河川と都市の両面から将来の治水の方向性を考察する。			
テーマ	大規模浸水のリスク管理と流域住民の被害最小化のための総合研究	佐賀大学 大串 浩一郎	b	これまでの研究蓄積の上に、被災リスク調査や地盤情報データベースの構築等、研究は着実に進捗しているが、都市計画的検討の充実に留意しながら研究を継続することが妥当と評価する。
概要	佐賀平野を研究対象地として大規模浸水のリスク管理と流域住民の被害最小化のための異分野融合による総合的な研究を実施する。			
テーマ	行政と住民間の連携を考慮した河川環境改善と水害リスク軽減に関する研究	琉球大学 神谷 大介	b	河川環境の保全・再生活動及び避難行動それぞれの分析は着実に進捗しているが、両者の分析を融合した成果が得られるよう研究全体の枠組みに留意しながら、研究を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究は、河川管理者および住民間の連携による、平時の河川環境改善と豪雨災害リスクの軽減を目的とした計画論の構築を目指すものである。			
テーマ	高度数値解析による河川氾濫詳細被害情報を活用した災害時のコミュニティバス活用方策の研究開発	埼玉大学 小嶋 文	b	氾濫解析やバス運行計画の検討等、個々の研究は着実に進捗しているが、解析結果のバス運行計画への反映、実際の運用体制等の社会実装に留意しながら、研究を継続することが妥当と評価する。
概要	数値解析で得られる高度水害リスク情報を踏まえ、コミュニティバスの避難支援活用方策及び避難効率の向上方策の開発を図る。			

評価の凡例

- a:非常に優れた研究であった。
- b:優れた研究であった。
- c:条件付きで評価できる(研究費の減額等)。
- d:優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)。